

横のつながりを力に、 病院薬剤師の未来をともに拓く

一般社団法人福岡県病院薬剤師会会長
九州大学病院教授・薬剤部長
内田まやこ Mayako UCHIDA



日本病院薬剤師会会員の皆様におかれましては、日頃より、各地域・医療機関において、薬物療法の適正化、医療安全の確保、チーム医療の推進、並びに次世代を担う人材の育成にご尽力されていることに、心より敬意を表します。このたび、福岡県病院薬剤師会会長として、全国の皆様にご挨拶申し上げる機会を賜りましたことを、大変光榮に存じます。

高齢化の進展、入院期間の短縮、在宅医療の推進、医薬品の供給不安、医療DXの加速など、病院薬剤師を取り巻く環境は大きく変化しています。限られた医療資源のなかで、安全で質の高い医療を継続して提供することが求められ、病院薬剤師の役割も一層広がっています。一方で、薬物療法の専門家として患者に寄り添い、安全かつ有効な治療を支えるという使命は変わりません。入院、外来、在宅を切れ目なくつなぐ医療が求められる今、薬剤師には、医薬品情報に加え、患者の治療経過や生活背景、多職種の専門的視点をつなぐ役割が期待されています。人と情報を適切につなぐことは、医療の質と安全を支える重要な基盤です。

福岡県病院薬剤師会は、福岡、北九州、筑後、筑豊の四地区を基盤として、研修事業、情報発信、薬学教育、地域連携に取り組んでまいりました。これらの活動を支えてきたのが、施設の規模や設置主体、地域、世代を越えた会員相互の「横のつながり」です。日頃から顔の見える関係を築き、課題に直面した際には相談し、互いの経験や知恵を共有できることは、本会の大きな強みです。

その具体的な取り組みの1つが、病院薬剤師の地域的偏在に対応する出向仲介事業です。本会が調整役となり、薬剤師の支援を必要とする病院と、派遣可能な病院とをつないでいます。出向は、単なる一時的な人員補充ではありません。出向者にとっては新たな経験を積み、視野を広げる機会となり、受入施設にとっては業務体制や人材育成を見直す契機となります。また、出向で得た知識や経験が出向元施設に還元されることで、双方の組織の活性化にもつながります。自施設の枠を越え、地域全体で人材を育て、支え合う視点が、今後ますます重要になると考えています。また、人材確保と育成については、福岡県薬剤師会と連携した就職支援セミナーや、本会独自の病院見学ツアーを実施し、学生や若手薬剤師に病院薬剤師の魅力と多様な働き方を伝えています。さらに、入退院時の情報共有を深める薬・薬連携、災害時の支援体制の整備、中堅薬剤師や管理職を対象としたマネジメント研修にも取り組んでいます。これらに共通するのは、平時から信頼関係を築いておくことの重要性です。互いの役割や強みを理解し、相談できる関係は、日常の医療連携を円滑にするだけでなく、災害や医薬品供給不安などの有事における対応力の向上にもつながります。

病院薬剤師の価値は、一人ひとりが患者と向き合い、日々積み重ねる実践によって築かれます。その成果を社会に伝え、次世代へ継承し、地域や施設による医療の差を縮めていくためには、個々の努力に加え、組織や地域を越えた連携が欠かせません。それぞれが有する知識、経験、人材、優れた実践を共有し、互いの強みを生かして課題を乗り越えることが、病院薬剤師全体の専門性と社会的評価を高め、患者が受ける医療の質の向上につながるものと確信しています。

福岡県で大切にしてきた横のつながりを、県境を越えた学び合いと支え合いへと広げ、日本病院薬剤師会という大きなつながりのなかで、病院薬剤師の未来、そして患者の未来を、ともに切り拓いてまいりたいと考えています。全国の会員の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導とご連携を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。